



猛勉強81歳 夢かなった

英国の庭興味 英会話学びホームステイ

半年前に英会話を学び始めた八十一歳の浅井末子さん(名古屋市長古屋市昭和区)が十六日夜、英国での九日間のホームステイを終えて帰国した。「本場のガーデニングを見てみたい」と渡英を決意してから、教室に通い、家でも英会話のCDを聞き続けて猛勉強。長年の夢をかなえた。

(社会部・塚田真裕)

昭和区の浅井さん

「こんなに幸せでいいの」。
十六日夜、中部国際空港(愛知県常滑市)に着いた浅井さんは英国での生活を振り返り、声を弾ませた。
七日から十五日まで、ロンド

だが、青果卸業を営んでいた夫の仕事を手伝ったり、三人の子育てに追われたりして、本格的

の北西百五十キロにあるチェルトナム市の六十代夫婦の家にホームステイした。庭にはフクシアやマリーゴールド、ペゴニアなど色とりどりに咲く花と木々があり、小鳥がさえずっていた。夫婦と市場でチューリップの球根を買い、一緒に庭に植えた。
二十歳のころからガーデニングが好きで、市のコンテストで入賞したことも。「いつか、かわいい花が咲く英国の庭で昼寝してみたい」と長年、思っていた。

今年二月に「これならできそう」と、アルファベットを使わずにカタカナで発音を教える名古屋市長古屋市の英会話教室に通い始めた。講師の長谷川雄一朗さん(三三)に、英語を習う理由を「一人であこがれの英国に行ってみたいから」と伝えた。「でも、おばあちゃんだから無理でしょう」とも。外国にも行ったことがない。それでも「元気なうちに」と、思い切って夢を言葉にした。

長谷川さんは「大丈夫ですよ。行きましょう」と背中を押し

た。「お土産を渡す場面を教えて」「洗濯する時の会話を」。次々と質問する積極性と好奇心がある浅井さんなら大丈夫だと思っ

週に二時間、教室に通い、家では洗面所や寝室など四方所にCDプレーヤーを置いて英会話を聞き続けた。いつもエプロンに小さなノートを入れて、気になった英単語を調べて書き込んだ。

勉強のかいあって、英国では意思の疎通もできた。夫婦からは「また必ず来て」と言われた。「夢を持っていれば年齢に関係なく努力するもの」と思う。次の夢は、再び夫婦を訪れること。その時にはもっと上手な英語で驚かせてやろうと思っ



ホストファミリーと楽しそうに記念撮影に納まる浅井末子さん(左)と英国のチェルトナム市で(浅井さん提供)